



通常議員総会



令和8年度の重点事業について説明する八木会頭

通常議員総会が3月31日午前11時より福井商工会議所ビルで開催され、90名が出席した。

開会にあたり、八木会頭は令和8年度の活動テーマ「志高挑新」を掲げた。時代の変化に挑戦しながら、地域企業と地域経済の持続的な発展を目指す方針を示し、以下の3つの重点事業を柱として取り組んでいくことを表明した。

1つ目が「生産性・付加価値・収益力・経営基盤の総合支援による『稼ぐ力』の強化」。中東の紛争に起因する原油価格が高騰し、原材料費への波及や物価高騰への懸念がある。また、少子高齢化の加速により人手不足も深刻であり、人材獲得のためには賃上げに必要な原資を生み出すことが急務となっている。こうした経営環境の変化に対応するには「稼ぐ力」の強化が不可欠として、デジタル化や生成AI活用による生産性向上をはじめ、付加価値創出・収益力強化と経営基盤強化をサポートする取り組みを展開することで地域の企業経営を総合的に支援し、成長につなげていく方針を示した。

2つ目が「ビジネス交流促進と賑わい創出・アリーナ整備の推進」。昨年度までに北陸新幹線開業後、群馬県・埼玉県・長野県など新幹線沿

線地域の商工会議所との交流を積極的に推進してきた。その成果のひとつとして、昨年開催した「北陸技術交流テクノフェア」では長野・関東方面からの出展数が過去最高の56社を記録したことを紹介。このビジネス交流・技術交流をさらに拡大するとともに、観光やまちなかのにぎわい創出事業を通じて、交流人口の拡大と県都の魅力向上に取り組んでいく考えを示した。

また、福井アリーナ（仮称）の整備については、今後実施設計に入り本格的に動き出す段階を迎える予定となっており、募金活動や機運醸成活動に加え、整備会社の財務基盤強化のための増資なども進めていく方針を示した。八木会頭はアリーナ事業について「他人ごとではなく、我々一人ひとりの『自分ごと』として捉えていただきたい」と強調し、機運醸成への協力や寄付、関係各社への周知など、会員一体となった取り組みを呼びかけた。

3つ目が「会員価値の向上と持続可能な組織基盤の確立」。組織の基盤となる会員数の増加を目指し、会員同士の交流機会の拡充や情報発信の強化を通じてサービスの充実に取り組む。また、要望・提言活動や組織基盤の強化を推進し、会員事業所

にとつてより価値の高い商工会議所を目指していく旨を説明した。

続いて、令和8年度の事業計画について藤川博史専務理事より、収支予算案について寺川直輝理事よりそれぞれ説明が行われ、いずれも全会一致で可決された。

また、総会に先立ち日本商工会議所の永年勤続議員表彰が行われ、左記の2名の議員に八木会頭より表彰状が授与された。

日本商工会議所 永年勤続議員表彰

【勤続20年】

中山 浩行（株）ナカテック 社長）
太田 芳一（株）太田屋 社長）



永年勤続議員を表彰